

ニホンジカ対策に必要な人材の確保を目指した研修会を開催しました

～地域におけるシカの対策を担う人材育成への取り組み～

1. 概要

静岡森林管理署と静岡県は、ニホンジカ個体数の急激な増加と森林被害の拡大に伴い、森林が持つ様々な機能の低下が危惧されていることから、これに対応するための人材育成を目的とする研修会を開催しました。

特に、防護柵等の設置による防除と捕獲を一体的に取り組むことが重要になっており、防護柵の設置にあたっての注意点や捕獲にあたっての基礎的な知識の習得など、全般的なシカ対策に係る研修に情報交換を交え、12月17日に開催したのでご紹介します。

2. 参加者

今回は、静岡県や市町の行政機関、(国研)森林整備センター、林業事業者などから29名、森林管理局・署の職員32名の計61名が参加しました。

3. 実施した内容

午前中は捕獲をテーマに、静岡森林管理署から、富士山国有林におけるこれまでの防除と捕獲の取組みを説明しました。静岡県からは、県内の捕獲の取組みや課題のほか、新たな捕獲方法や当日現地の近くで捕獲したシカを教材として、シカの特徴を踏まえた防除方法などの説明がありました。また、伊豆森林管理署からは、職員実行による捕獲の取組みについて報告がありました。

午後は防除をテーマに、静岡署や防護柵の設置事業者から、現地で立木柵、枝条柵、金網柵、単木保護資材のそれぞれの設置の際の注意点等やドローンによるシカ柵の見回りの様子について説明・実演しました。(国研)森林整備センターからは、シカ害防除マニュアルの説明、静岡県からは、主伐・再造林やシカ防護柵の支援について説明がありました。

参加者からは、防護柵を設置する際の工夫やその後の被害、メンテナンスなどについて多くの質問が寄せられ、シカ対策に対する関心の高さがうかがえました。



捕獲したシカで説明を受ける参加者



立ち木を利用した「立木柵」



枝条を堆積した「枝条柵」



メンテナンスフリーに近い「金網柵」



単木ごとに防除する「単木保護」資材



「ドローン」による見回り(イメージ)

4. 今後の展望

関東森林管理局では、防護柵等の設置による防除と捕獲を一体的に取り組むことが実践できる人材の育成を推進していくため、関係機関と連携しつつ今後も獣害対策に努めていきます。



問い合わせ先

林野庁 関東森林管理局 静岡森林管理署

担当者：地域林政調整官 宝田

T E L : 054-254-3401 F A X : 054-253-7829